

# 北上市総合計画 2021~2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間：令和6年度）

基本方針	6.健康と安心の地域づくりの推進
基本施策	6-2.お互いを支え合う地域づくり
関連するプロジェクト	6.いきいき元気ライフプロジェクト

生涯にわたって安心して暮らすことのできる地域づくりをさらに進めるため、一人ひとりの人権を尊重する「心」とお互いを支え合う地域福祉活動を基盤に、自殺予防・介護予防・生きがいづくり・自立支援の一層の充実など、様々な状況にある市民を支える地域共生社会の実現に取り組みます。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
B

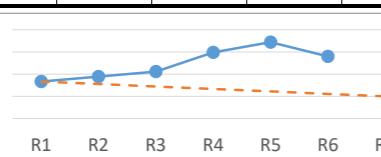
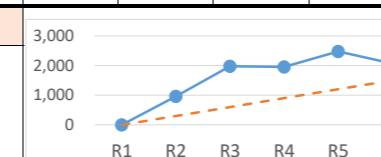
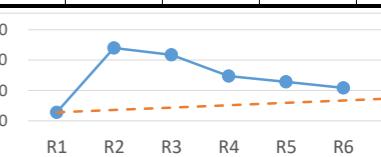
※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後  
14

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針(R6)	成果指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)	達成状況評価	達成状況に至る要因の分析		今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かること) (◇:R7/◆:R8以降)
							市の活動による影響(内部要因)		
1	福祉部	● 高齢社会を支える「しくみづくり」	権利擁護に関する制度の周知、普及啓発、相談窓口の明確化を行い、司法、福祉、保健、医療の専門職と連携し、権利擁護支援の地域連携ネットワーク体制の構築を行うとともに、成年後見制度の担い手の養成及び育成に取り組む。	① 指標に基づく事実	高齢者・障がい者のサービス提供事業所における制度の認知度(75%)であり、前年度(58%)より向上した。	A  (B)	指標に関する内容 広報の推進により制度の周知が図られた。 ・支援者向けの出前講座・研修講師(4回)、市民向け出前講座(3回)、市民向け講演会(1回)、市民向け講座(1回) ・権利擁護支援者向け勉強会(1回) ・医療従事者向け研修会(1回)	指標に関する内容 独居高齢者及び認知症高齢者等の増加により、成年後見制度の利用者は今後も増加することが見込まれる。	◇制度周知のための市民向け講演会、勉強会、相談会、出前講座の開催 ◇障がいの子を持つ親向け勉強会 ◇権利擁護支援者向け勉強会 ◇医療従事者向け権利養護研修会 ◇審議会、ネットワーク会議の継続開催 ◇市民後見人に関する講演会の開催と、市民後見人養成講座の開催
					・成年後見制度利用促進審議会の開催 1回 ・地域連携ネットワーク会議の開催 6回		指標以外の内容 関係機関によるネットワークの構築により、制度に対する理解が進んだ。		
2	福祉部	● 高齢者を支え合う「ちいさ」づくり	ご近所おたすけセンター養成講座の実施やボランティアポイントの活用により、新たな担い手の育成を行つとともに、関係機関と連携して高齢者を支える場の創出を図り、地域における活動の活性化を図る。	② 指標に基づく事実	介護予防ボランティア(ご近所おたすけセンター養成講座の受講者数)は437人(期待値452人)だった。	B  (B)	指標に関する内容 ・ご近所おたすけセンターに求める役割を「地域の居場所」か「訪問B」の担い手として活動することと明確にしたうえで講座を開催し、受講希望者が増加した。	指標に関する内容 ・高齢化が進む中、支え合いのしくみづくりはますます重要さを増している。	◇フォローアップ研修の内容を見直し、ご近所おたすけセンターへの新たな研修会を開催する。 ◇生活支援コーディネーターによるご近所おたすけセンターの後方支援やフォローアップ体制を整備し、高齢者の居場所づくりや地域における支え合いを推進する。
					高齢者集いの場づくり事業の実施団体が2団体増加し、17団体となった。(上段から移動)		指標以外の内容 高齢者集いの場づくり事業費補助金の対象経費を拡大し、新たに食糧費と送迎に要する経費を追加した。団体の活動に際し、必要と認められるものを対象経費に追加することで、活動を促進した。		
3	福祉部	● 認知症バリアフリーの推進	認知症センター養成講座の開催を推進し、全世代に認知症に対する正しい理解を広めるとともに、本人や支える家族の視点を大事にした支援体制の構築を図る。	③ 指標に基づく事実	認知症センター養成講座を35回開催し、844人を養成した。人口に占める認知症センターの割合は13.8%であり、期待値は下回っているが増加している。	B  (B)	指標に関する内容 ・地域包括支援センターと協力し、地域や民間事業所等に働きかけ、講座の周知を図った。 ・認知症センターは累計12,626人となつた。	指標に関する内容 ・高齢化の進展に伴い、認知症高齢者数は増加し続けており、認知症に対する理解を広げることが求められている。	◇理容関係や高校に講座の周知を行い、開催回数やセンターを増やす。 ◇孫世代へや高校生への講座を引き続き開催することで、若年期から認知症に対する知識や対応方法などを広く周知し、認知症に対する理解を深める。
					・認知症VR体験の開催 ・認知症サポートステップアップ講座の開催(3回)		指標以外の内容 ・高校生や専門学校生を対象に認知症理解促進のため、認知症VR体験を開催した。 ・専門学校生、高校生の認知症センターを対象にステップアップ講座を開催し、内容を深めた。 ・小学生への孫世代のための認知症講座では人型ロボットのペッパーを使用し理解を深めた。		

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針(R6)	成果指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)	達成状況評価	達成状況に至る要因の分析			今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かること)(◇:R7/◆:R8以降)	
							市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	健康こども部	自殺予防に向け、生きるために包括的支援体制づくりの推進	府内及び関係機関との連携を強化し、自殺に対する認識の浸透及び自殺防止につながる事業を実施する。また、市民ひとり一人がゲートキーパーとなり、社会全体で自殺防止意識の醸成を図る。	④	自殺者数は22名と減少し人口10万人あたりの自殺死亡率は24.0となり期待値にはやや近づいたが目標は達成できていない。	C	指標に関する内容	・新採用職員、全庁職員、市内福祉協力員、民生児童委員、相談員等に向けゲートキーパー養成講座を開催し144名を養成した。 ・中学校3校、高校1校を対象にSOSの出し方・受け止め方の講演会、市民を対象に市民講演会を開催した。 ・企業の保健師、人事担当職員等と情報交換を行った。	指標に関する内容	・自殺者の統計は厚労省及び警察庁が公表しているデータで把握できるが、要因や原因を特定することはできず、分析には限りがある。そのため、部門を超えた幅広い対策が必要。 ・失業・生活困窮等の社会的要因や転職・単身赴任等の生活環境の変化により、こころの健康に変調をもたらす等の自殺リスクの高まりが懸念されている。	◇いのち支える自殺対策推進会議及び幹事会、ネットワーク会議を開催。 ◇働き盛り世代への支援について、市内企業の産業保健師等との意見交換会を開催。 ◇こころの相談窓口一覧表を新版作成・配布、こころの体温計の配布等メンタルヘルスの啓発に努める。 ◇ゲートキーパー養成講座を新採用職員及び庁内職員向けに継続実施。 ◇中学校の生徒及び教職員、高校生に加え、新たに専門学生を対象にSOSの出し方・受け止め方教室を実施。 ◇市内小中学校、高校、専門学校に厚生労働省が作成した若年層向け普及啓発用ポスターを配布。 ◆健康づくりプランと自殺対策計画の統合した第5次健康づくりプランに基づき、心身の健康を一体的に推進していく。
							指標以外の内容		指標以外の内容		
5	福祉部	ひきこもり支援の推進	ひきこもりに関するスキルの共有と専門性の向上を図り、併せて、具体的な支援施策に対する意見交換や評価などを行う「ひきこもりネットワーク協議会」を核として、専門性を持つ相談窓口や居場所づくり等のひきこもり支援を継続して実施する。 また、生活困窮に陥る可能性のある「ひきこもり」などの方に対して、自立相談支援機関の「アウトリーチ」による支援を継続して実施する。	⑤⑥	⑤ひきこもり支援のための居場所の延利用者数、⑥アウトリーチ支援員等の訪問・出張面談の件数は、期待値を上回っている。	A	指標に関する内容	・「アウトリーチ支援」及び「ひきこもり地域支援センター事業」を委託事業化し、継続的な支援体制を構築した。 ・一般市民や本人・家族に向けた周知・啓発活動(講演会等)を実施したことでの、ひきこもりに対しての理解が促進された。	指標に関する内容		◇委託事業を①「ひきこもり相談窓口」と②「居場所事業」に分け、市全体のひきこもり支援の調整機能である①を社会福祉協議会へ、②の主な内容である居場所事業を労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団へ委託し、2法人が中心となり市内のひきこもり支援実施体制を構築している。また、「アウトリーチ機能」を重層的支援体制整備事業の一環として社会福祉協議会へ委託することにより、複合化・複雑化した課題に対する包括的な支援体制の構築を目指す。 ◇引き続き国・県に対しても財政的な支援を含め協力を依頼していることから、今後も継続的な支援体制の構築を目指す。
							指標以外の内容		指標以外の内容		

凡例 ● 実績値 — 期待値

指標①		指標の説明									指標②		指標の説明									指標③		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
福祉部	% ※R7は目標値	実績値	38.0		56	59	58	75		福祉部	人	実績値	209	230	259	331	391	437		福祉部	% ※R7は目標値	実績値	9.6	10.0	10.3	11.6	12.8	13.8				
		期待値	38.0	45.0	52.0	59.0	66.0	73.0	80.0			期待値	209	258	306	355	403	452	500			期待値	9.6	10.5	11.4	12.3	13.2	14.1	15.0			
		備考	未調査									備考	累計									備考										
指標④		指標の説明			指標⑤		指標の説明				指標⑥		指標の説明																			
担当部等		単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
健康こども部	人	実績値	18.33	19.45	20.57	24.9	27.2	24		福祉部	人	実績値	0	963	1,979	1,955	2,477	2,067		福祉部	件	実績値	156	580	535	395	357	317				
		期待値	18.33	17.78	17.22	16.67	16.11	15.56	15			期待値	0	300	600	900	1,200	1,500	1,800			期待値	156	172	187	203	219	234	250			
		備考										備考							備考													
指標⑦		指標の説明			指標⑧		指標の説明				指標⑨		指標の説明																			
担当部等		単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
指標⑩		実績値										実績値										実績値										
		期待値										期待値										期待値										
		備考										備考										備考										
指標⑪		指標の説明			指標⑫		指標の説明				指標⑬		指標の説明																			
担当部等		単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
指標⑭		実績値										実績値										実績値										
		期待値										期待値										期待値										
		備考										備考										備考										
指標⑮		指標の説明			指標⑯		指標の説明				指標⑰		指標の説明																			
担当部等		単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
指標⑯		実績値										実績値										実績値										
		期待値										期待値										期待値										
		備考										備考										備考										